



入所施設・グループホーム利用者の
一日の暮らしはどのようなものか

～「暮らしの状況アンケート調査報告書」～

神奈川県知的障害者施設保護者会連合会



はじめに

神奈川施保連では、神奈川県知的障害施設団体連合会の多大なご協力を得て、昨年12月から本年1月にかけて、「入所施設とグループホームを利用している方たちの一日の暮らしがどのようなものか」について、アンケート調査を行いました。

この報告書はその結果を取りまとめたものですが、今後行政への要望や、各保護者会等が施設側と意見交換をする際に、多少なりともご参考になれば幸いです。

最後に、お忙しい中ご協力いただいた、神奈川県知的障害施設団体連合会と加盟施設の皆様に、心からお礼を申し上げます。

神奈川県知的障害者施設保護者会連合会
会長 大矢 武久

アンケート調査の目的等

1 調査目的

この調査は、知的障害のある人たちが、入所施設あるいはグループホーム（以下「施設等」）で、一日を通してどのような暮らしをしているのか（支援を受けているのか）、その実態や課題を明らかにし、施設と家族会との意見交換や、行政に対する意見・要望に反映させることを目的としています。

2 調査対象

- (1) 家族会等が神奈川施保連に加盟している施設
- (2) (1)以外であって、神奈川県知的障害施設団体連合会に加盟している施設
- (3) これによる回答施設数は、入所施設43施設・グループホーム32施設。

3 調査方法

「施設等」の利用者の日常生活にかかわる次の14項目について、支援の充実度について、5段階で評価してもらいました。

なお、評価項目では言い表せない事項については、自由記入欄に記入してもらいました。

評 価 項 目




- | | |
|----------------|----------|
| 1 起床時間 | 5 就寝時間 |
| 2 食 事 | 6 理美容の回数 |
| 2-(1) 食事時間 | 7 爪切りの頻度 |
| 2-(2) 配 膳 | 8 歯磨きの支援 |
| 3 入 浴 | 9 洗濯の方法 |
| 3-(1) 入浴時間 | |
| 3-(2) 1週間の入浴回数 | |
| 3-(3) 小浴室設備の有無 | |
| 4 排泄への対応 | |
| 4-(1) 日中の対応 | |
| 4-(2) 夜間の対応 | |
| 4-(3) 失敗の対応 | |

評価項目ごとの回答状況




入所施設・グループホーム別、施設規模別に、評価項目ごとの回答数を棒グラフで示しますと、以下のようになっています。

なお、規模別の分類・表示は次のとおりです。

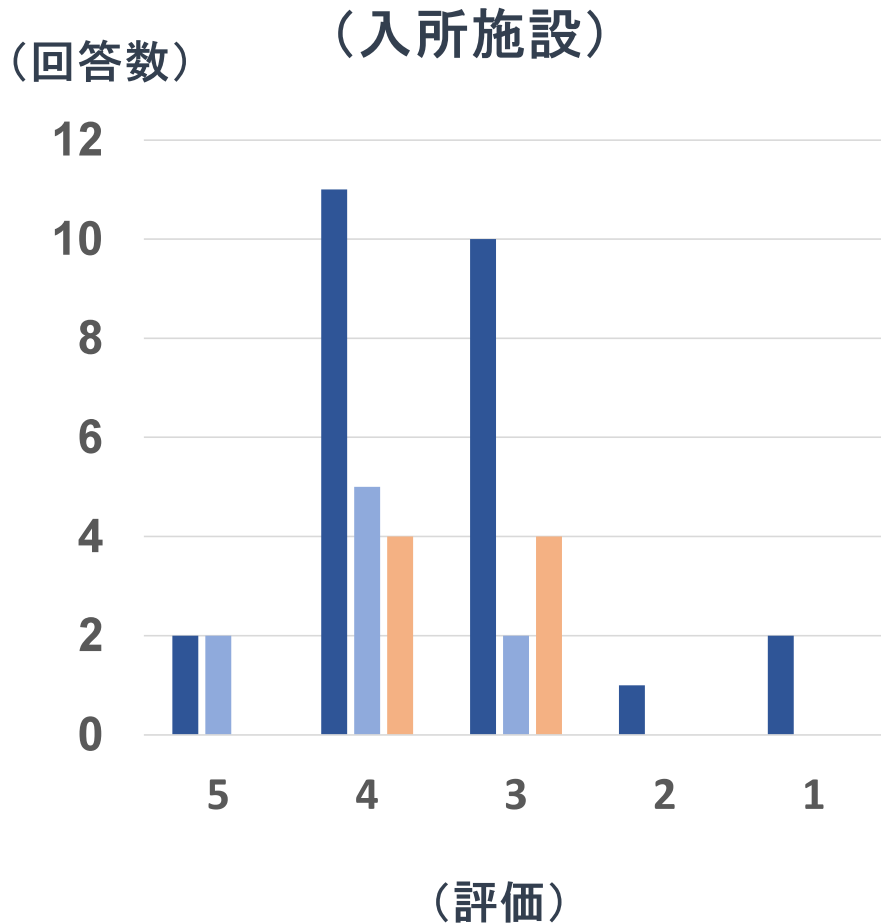
(1) 入所施設

-  小規模施設: 定員59人以下
-  中規模施設: 定員60～79人
-  大規模施設: 定員80人以上

(2) グループホーム

-  小規模: 2棟以下
-  中規模: 3～7棟
-  大規模: 8棟以上

1 起床時間



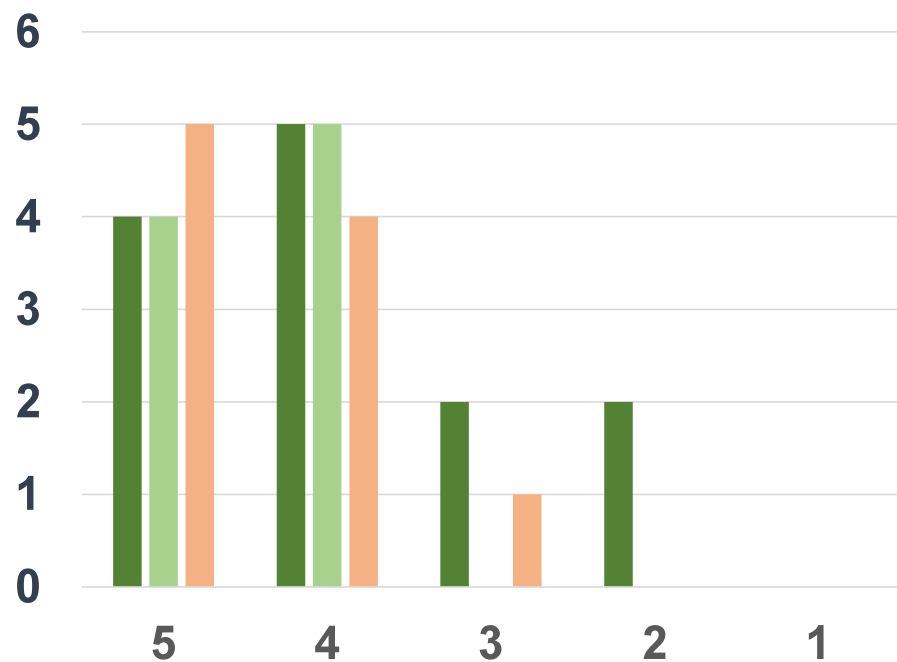
【評価方法】

- 5 : 起床時間帯に幅を持たせ、本人の希望する朝のペースづくりに配慮
- 4 : " 個々のペースに配慮
- 3 : 一斉起床が基本だが個々のペースにも配慮
- 2 : 家庭の常識的時間帯の一斉起床
- 1 : 早朝の起床時刻に一斉起床

【グラフについてのコメント】

小規模施設の場合は、評価全体に分布しているが、評価4・3が多い。
大・中規模施設の場合は、評価3以上である。

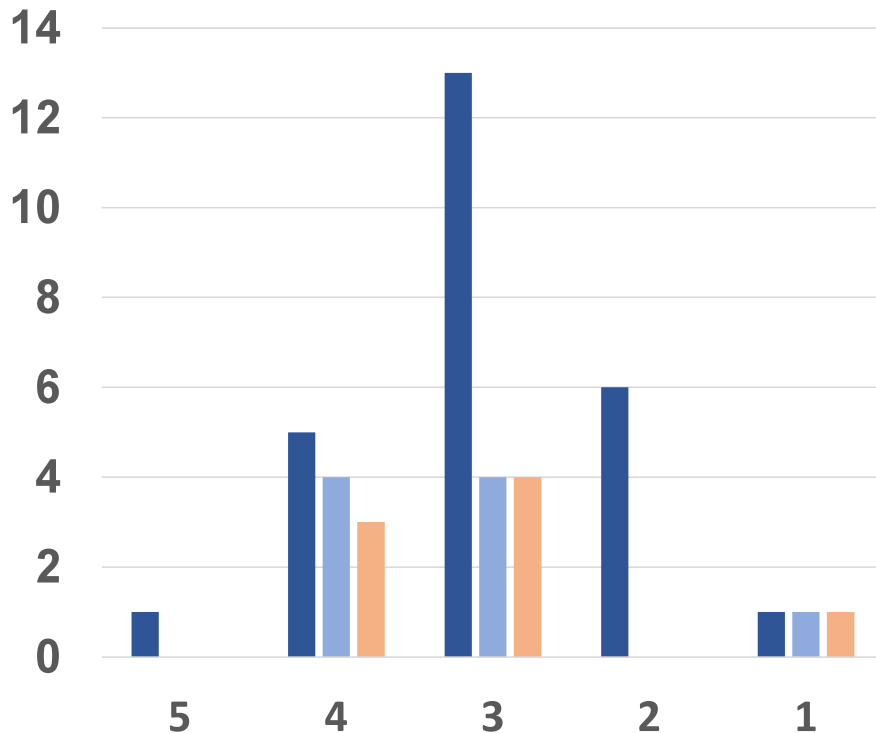
(グループホーム)



【グラフについてのコメント】

グループホームの性格上、施設規模にかかわらず、評価5・4（個々のペースに配慮）が多く、好ましい状況にあると言える。

2 食事時間



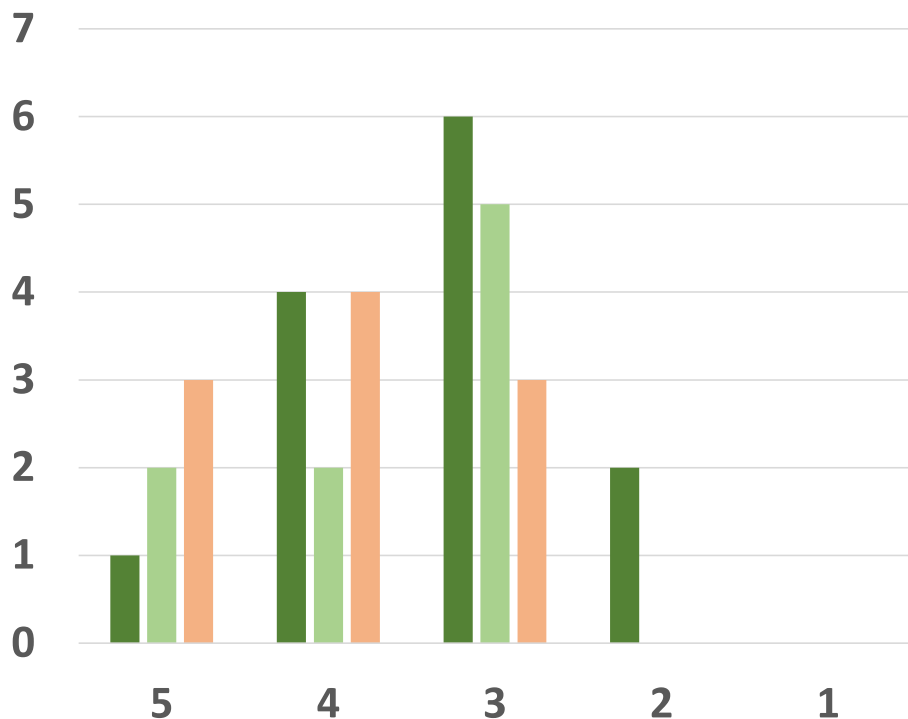
【評価方法】

- 5 : 食事時間帯に幅があり、個々の食事のペースに配慮。
- 4 : 食事時間帯に幅があり、個々のペースに配慮。
- 3 : 一斉食事が基本だが、個々のペースに配慮する場合もある。
- 2 : 家庭の常識的時間帯での一斉食事。
- 1 : 朝食は8時頃、夕食は5時頃の一斉食事。

【グラフについてのコメント】

小規模施設の場合、評価が全体に分散しているが、3が圧倒的に多い。中・大規模施設の場合は、評価4・3に集中している。

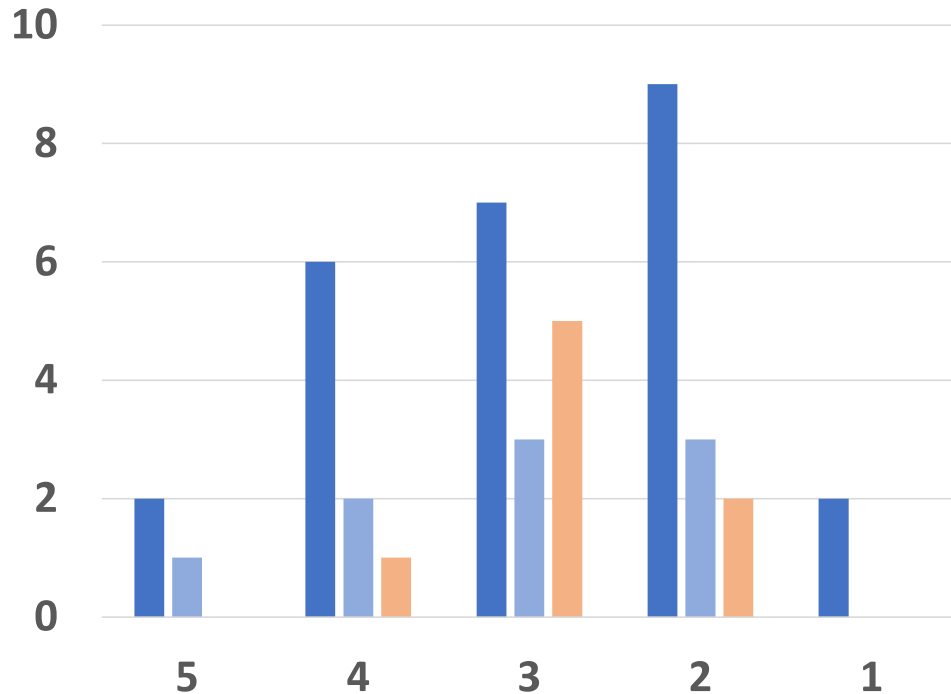
なお、施設規模を問わず、評価1がそれぞれあるのが、いささか気になる。



【グラフについてのコメント】

施設規模に関係なく、評価が分散している。
ただし、評価3以上（個々のペースに配慮）
が圧倒的多数なので、好ましい状況にあると
言える。

3 食事の配膳



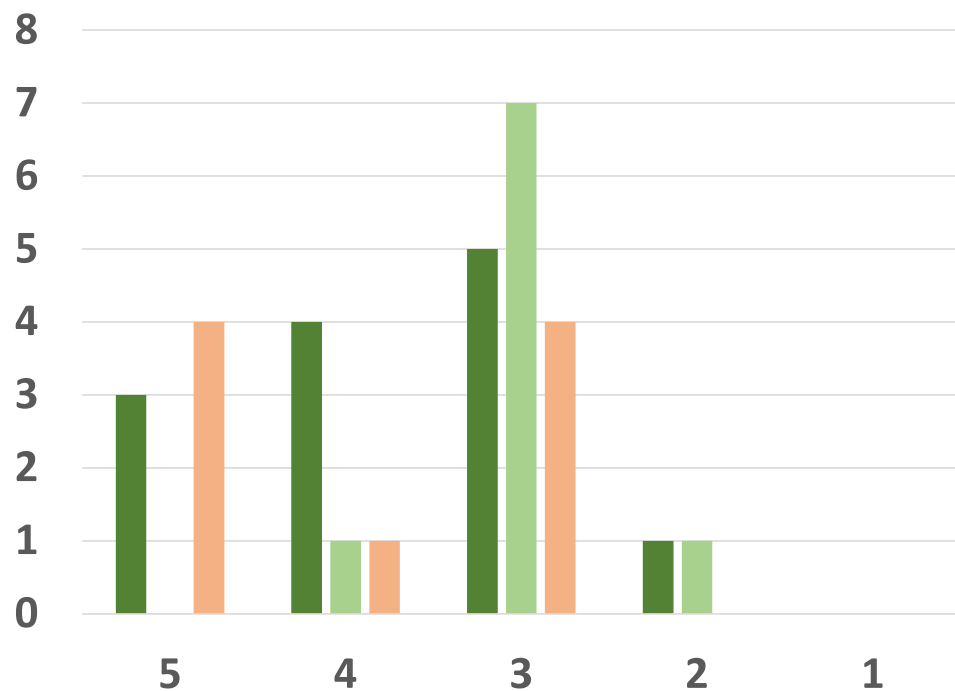
【評価方法】

- 5 : 個々人の食事直前に適温のものが配膳され、適温のお代わりもできる。
- 4 : 個々人の食事直前に適温のものが配膳。
- 3 : おかず類は適温で配膳。ご飯・みそ汁は直前に適温のものが配膳。
- 2 : おかず類は直前に配膳。ご飯・みそ汁は適温。
- 1 : すべての献立を直前に一斉配膳。

【グラフについてのコメント】

大規模施設の場合を除き、評価が分散しているが、大規模施設では評価3（ほぼ全品適温）が最も多い。

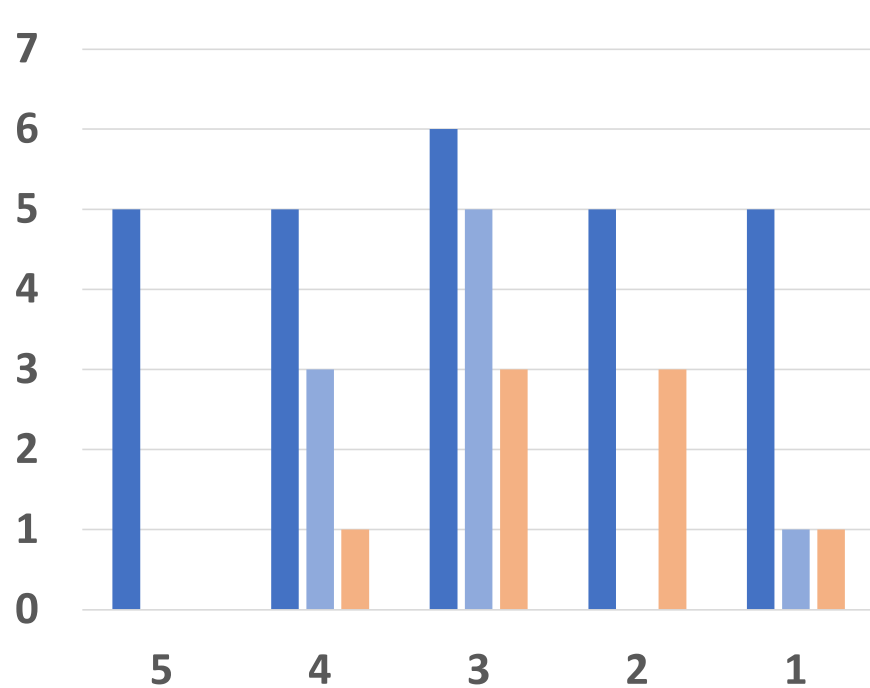
小規模施設では、評価2（ご飯・みそ汁のみ適温）が最も多く、評価1も2施設ある。



【グラフについてのコメント】

施設規模に関係なく評価3（ほぼ全品適温）以上というのが、多数を占めている。なお、中規模施設の場合は、評価3にほぼ集中している。

4 入浴時間帯



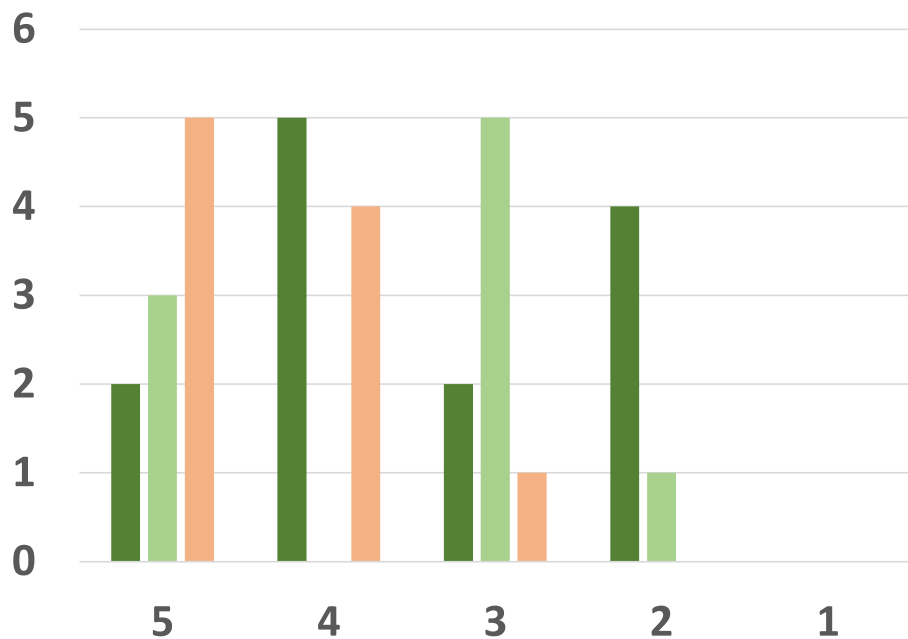
【評価方法】

- 5 : 時間帯に幅を持たせ、健康状態等に応じた個々のペースづくりに配慮。
- 4 : 時間帯に幅を持たせ、個々のペースに配慮。
- 3 : 常識的な時間帯を設定しているが、個々のペースに配慮。
- 2 : 常識的な時間帯に入浴。
- 1 : 日中の早い時間帯に入浴。

【グラフについてのコメント】

施設規模に関係なく評価は分散しているが、特に小規模施設の場合、すべての評価がほぼ同数になっている。

また、大規模施設よりも中規模施設の方が、個々のペースに配慮しているように思われる。

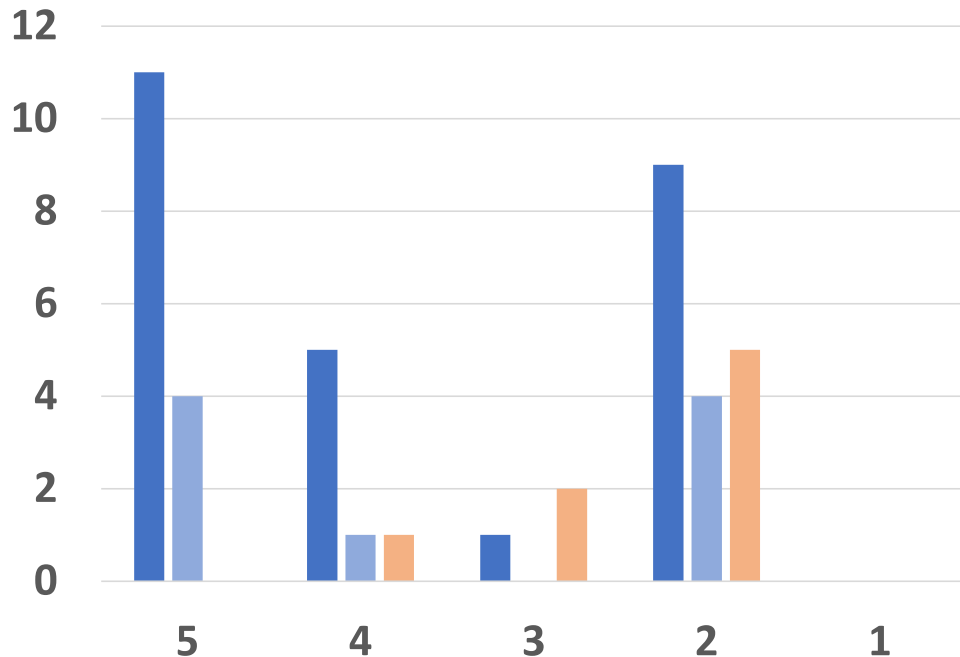


【グラフについてのコメント】

施設規模に関係なく評価1を除き分散しているが、全般的に「個々のペースに配慮」されており、ほぼ好ましい状況にあると言える。

特に大規模施設の場合、高い評価ほど回答数が多くなっているのが特徴的である。

5 入浴回数



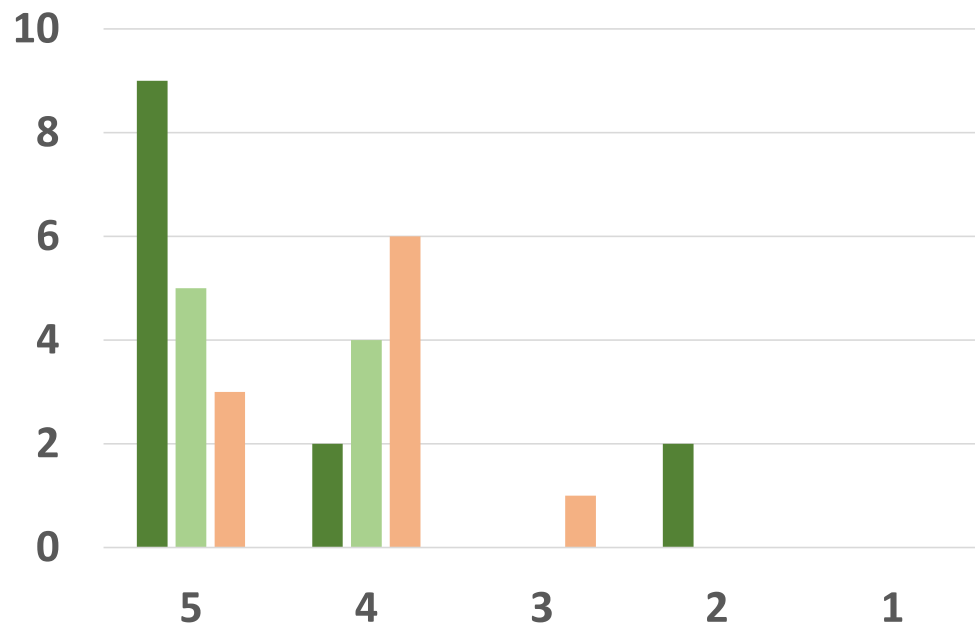
【評価方法】

- 5：利用者全員毎日入浴。
- 4：一部の利用者を除き毎日入浴。
- 3：週5～6日入浴。
- 2：週3～4日入浴。
- 1：週1～2日入浴。

【グラフについてのコメント】

小規模施設は評価5と2に二極分化しているが、評価5が最も多い。

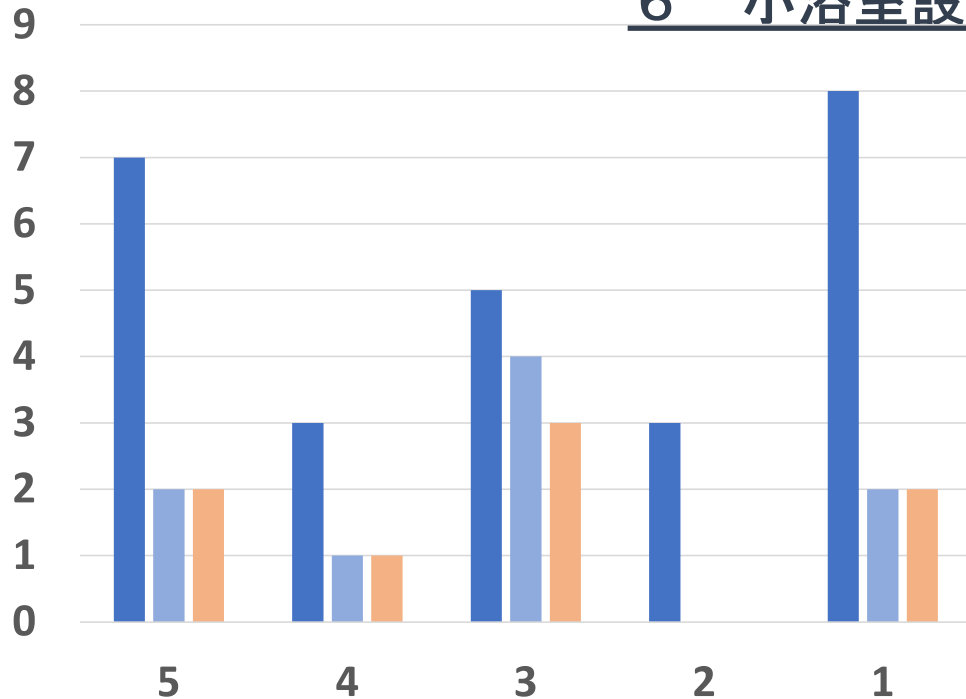
大規模施設は評価の低いほうに傾斜して（施設数が多くなって）いるのは、職員配置の関係で、手が回りにくいためか？



【グラフについてのコメント】

評価3・2が少数あるが、ほとんどが評価5・4に集中しており、総体的には好ましい状況と言える。

6 小浴室設備の有無



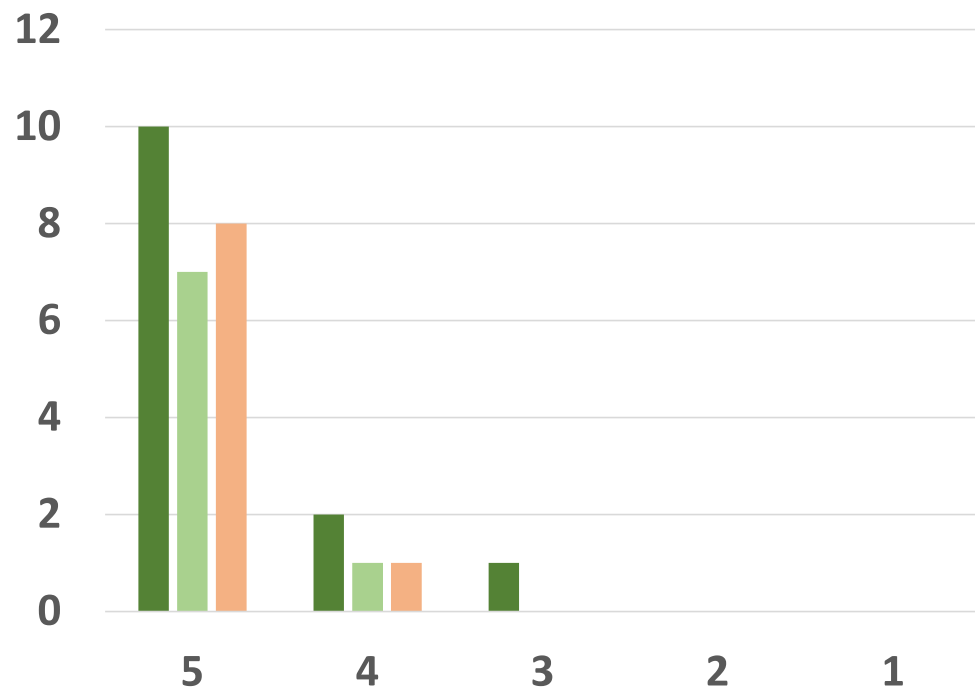
【評価方法】

- 5 : 設備あり。希望に応じて入浴できる。
- 4 : 設備あり。健康上問題がある場合は対応
- 3 : 設備なし。利用者の必要に応じ個別対応
- 2 : 設備なし。大浴室内に複数の浴槽を設置
- 1 : 設備なし。

【グラフについてのコメント】

施設規模に関係なく、評価が全体に分かれているが、小規模施設は評価1が最多で、中・大規模施設の場合も複数施設ある。

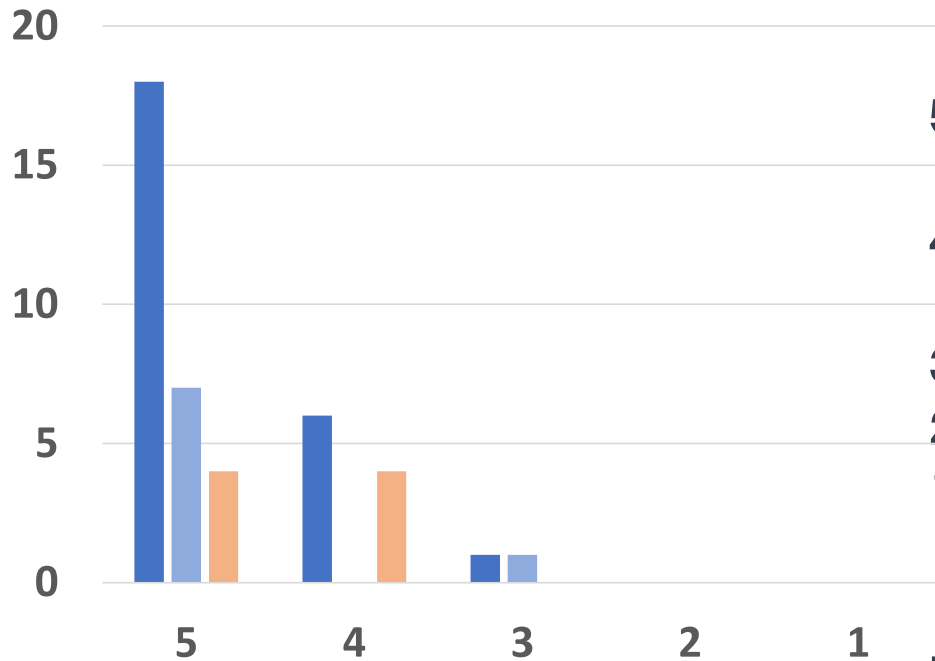
総体的な印象としては、評価3（設備はないが必要に応じ個別対応）が多い。ただし、具体的な対応内容は不明。



【グラフについてのコメント】

施設規模に関係なく、評価5に集中しているが、グループホームの浴室は、一般家庭と同様と考えられるので、これをもって入所施設の設備の有無と比較することは、適切ではないと考えられる。

7 排泄への対応（日中）

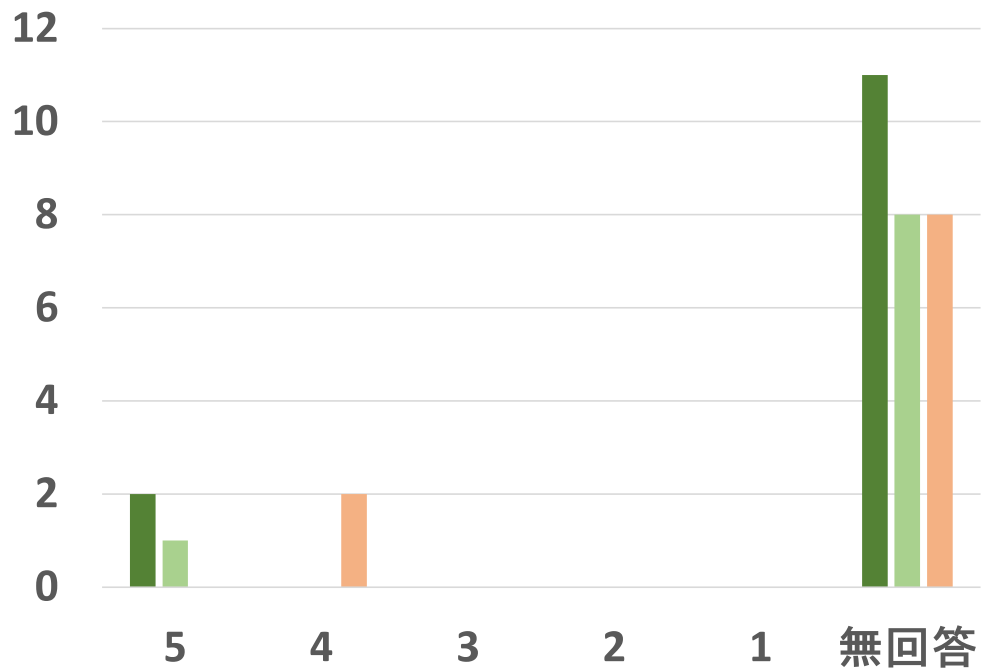


【評価方法】

- 5 : 定時確認が基本だが、オムツ交換だけでなく、清拭・シャワー浴等も実施。
- 4 : 定時確認が基本だが、排泄に気づけば適宜オムツ交換実施。
- 3 : 1日3回以上定時確認し、オムツ交換実施。
- 2 : 1日2回定時確認し、オムツ交換実施。
- 1 : 1日1回定時確認し、オムツ交換実施。

【グラフについてのコメント】

- ・ ごく一部を除き、施設規模に関係なく評価5・4であることは、好ましい状況と言える。



【グラフについてのコメント】

施設規模に関係なく「無回答」が非常に多いが、これはグループホーム利用者の場合、オムツをつけている利用者が、極めて少数のためと考えられる。

8 排泄への対応（夜間）

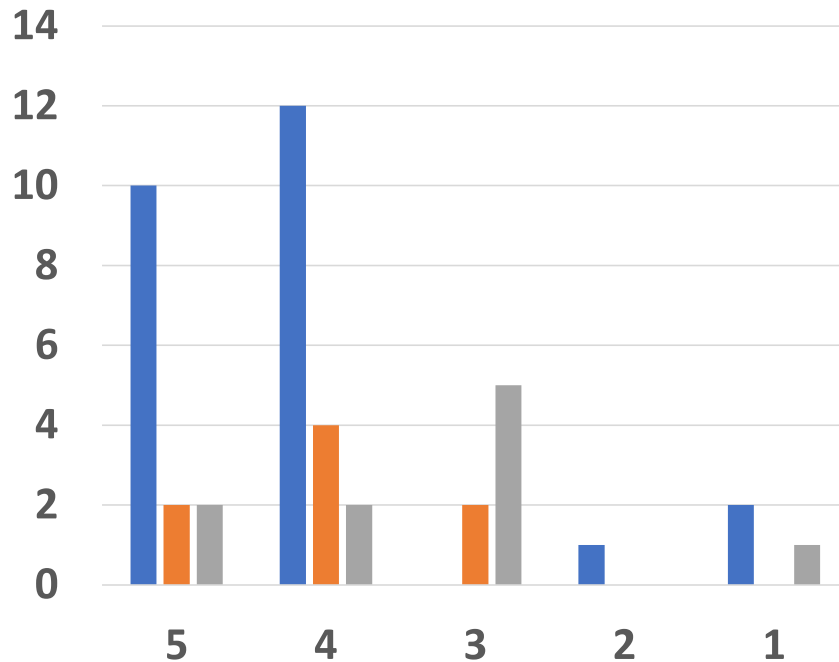
【評価方法】

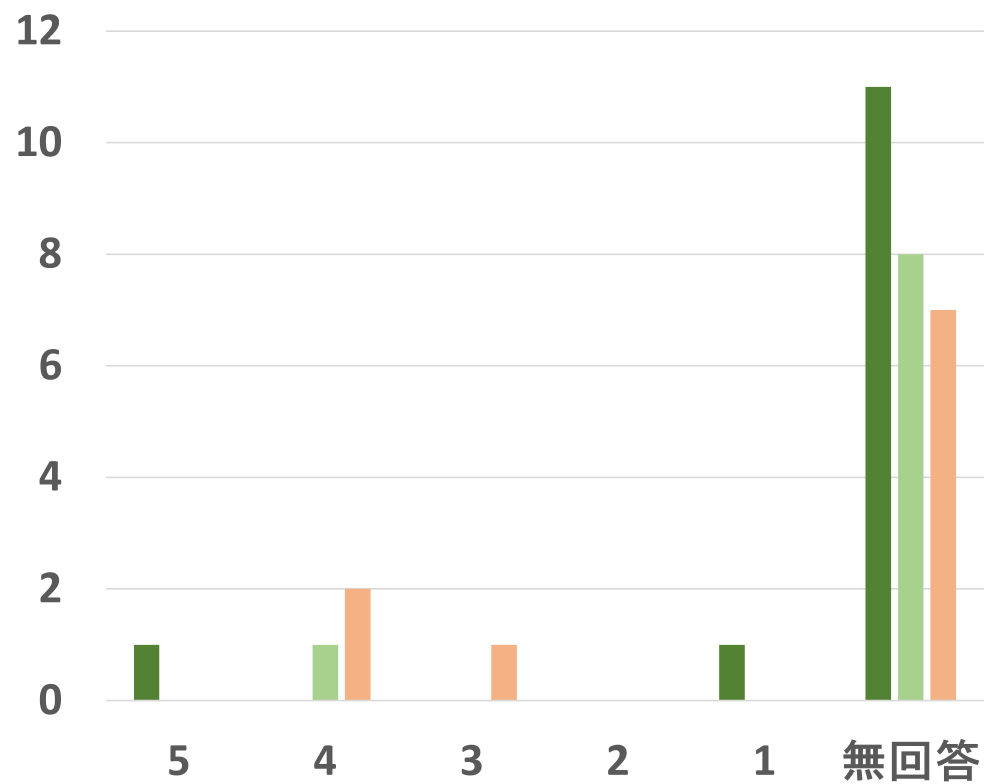
- 5 : 定時確認が基本だが、オムツ交換だけでなく、清拭・シャワー浴等も実施。
- 4 : 定時確認が基本だが、排泄に気づけば適宜オムツ交換実施。
- 3 : 1晩2回以上定時確認し、オムツ交換実施。
- 2 : 1晩1回定時確認し、オムツ交換実施。
- 1 : 就寝時にオムツをつけ、起床時に交換。

【グラフについてのコメント】

小規模施設の場合評価が全体に分布しているが、評価5・4が多数であり、中・大規模施設の場合もおおむね同様なので、ほぼ好ましい状況にあると言える。

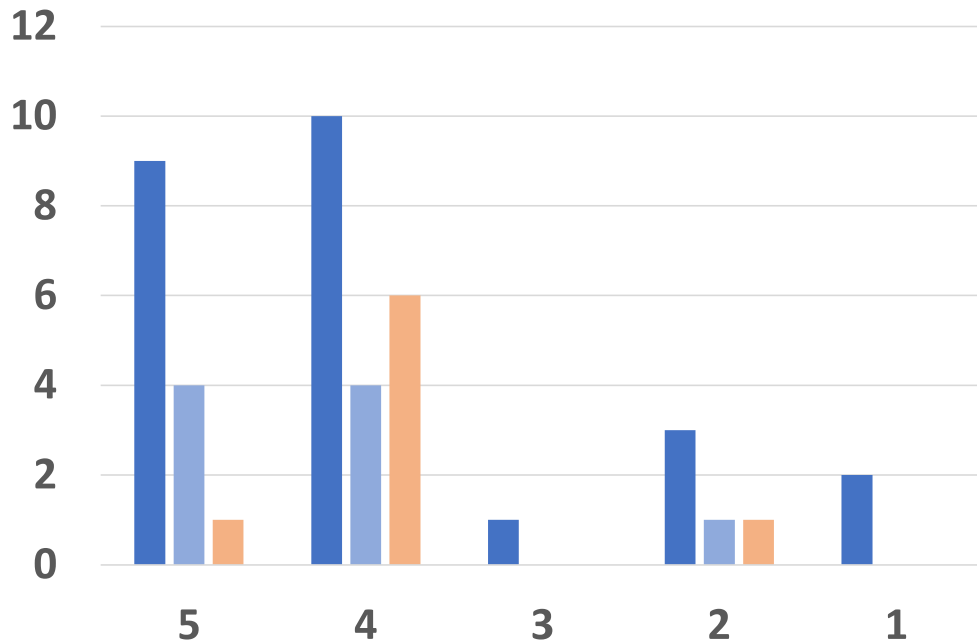
ただし、少数ではあるが評価1があることについては、今後改善を求めたい。





【グラフについてのコメント】
これについては、排泄対応（日中）と同様であると考えられる。

9 失敗への対応

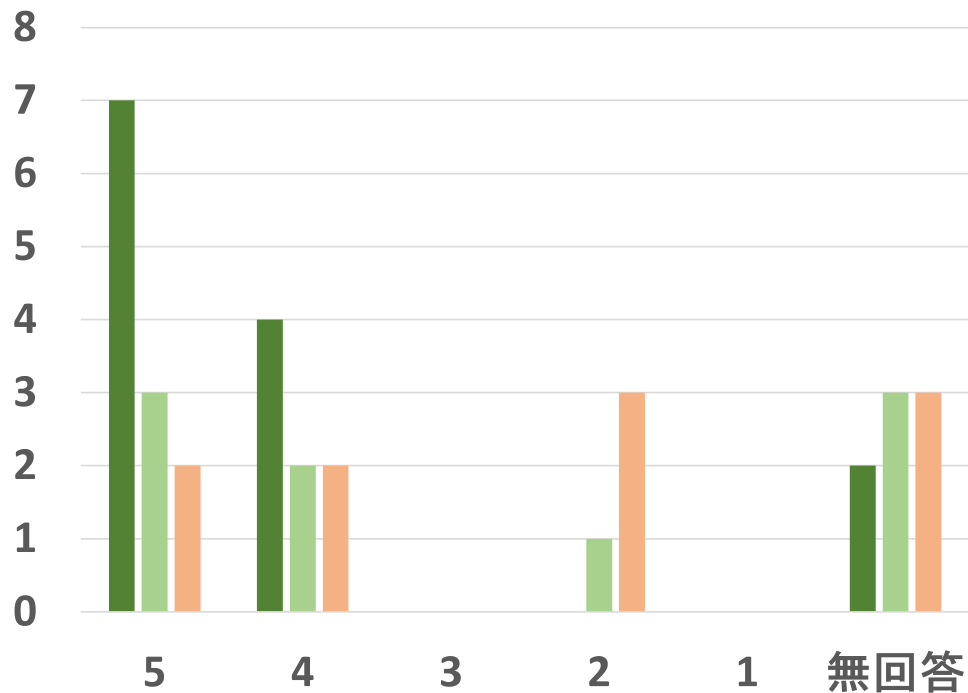


【評価方法】

- 5 : 失敗があった場合、基本的にシャワー浴。
- 4 : 失敗があった場合、清拭し更衣。
- 3 : 失敗があった場合、基本的に更衣のみ。
- 2 : 失敗がある利用者は、例えば夜間はオムツやパッドをつける。
- 1 : 失敗がある利用者は、常時オムツやパッドをつける。

【グラフについてのコメント】

評価はおおむね全体に分散しているが、評価5・4が主になっているので、ほぼ好ましい状況にあると言える。



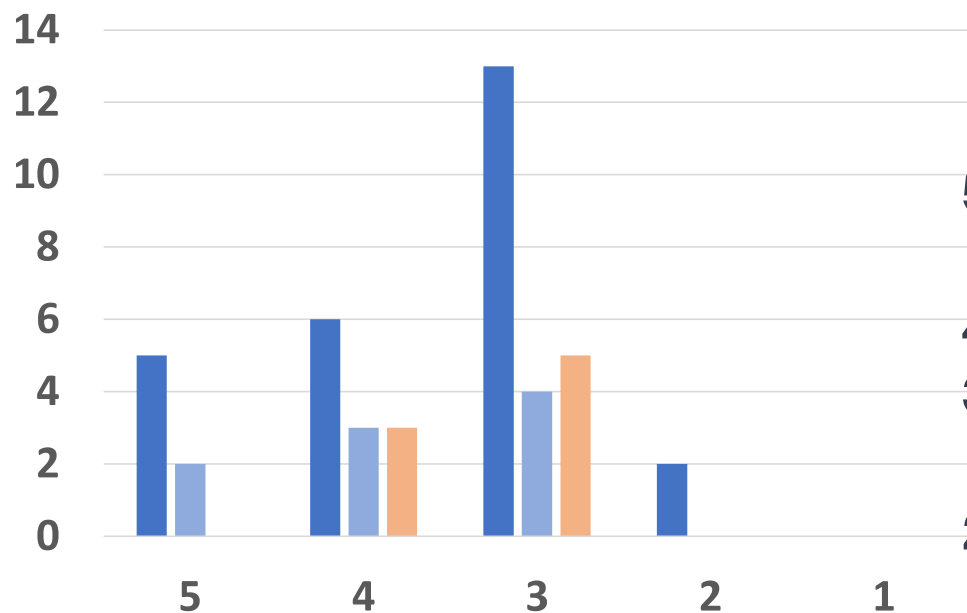
【グラフについてのコメント】

総体的には、施設規模に関係なく評価5・4が多数であり、ほぼ好ましい状況にあると言える。

ただし、大規模施設で評価2（オムツ交換は1回）というのが3施設あるのは気になる。

また、無回答については、日中の対応の場合と同じ理由によるものと考えられる。

10 就寝時間

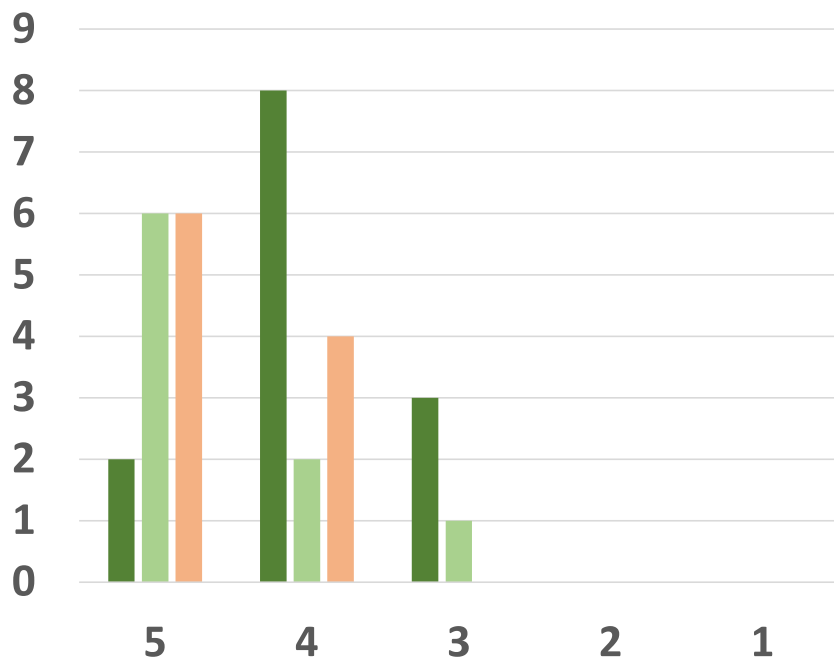


【評価方法】

- 5 : 時間帯に幅を持たせ、本人の眠りにつくペースづくりに配慮。
- 4 : 時間帯に幅を持たせ個々のペースに配慮。
- 3 : 定めた時刻での一斉就寝が基本。例外的に個々のペースに配慮。
- 2 : 一般家庭の常識的時刻に一斉就寝。
- 1 : 早い時間帯の就寝時刻に一斉就寝。

【グラフについてのコメント】

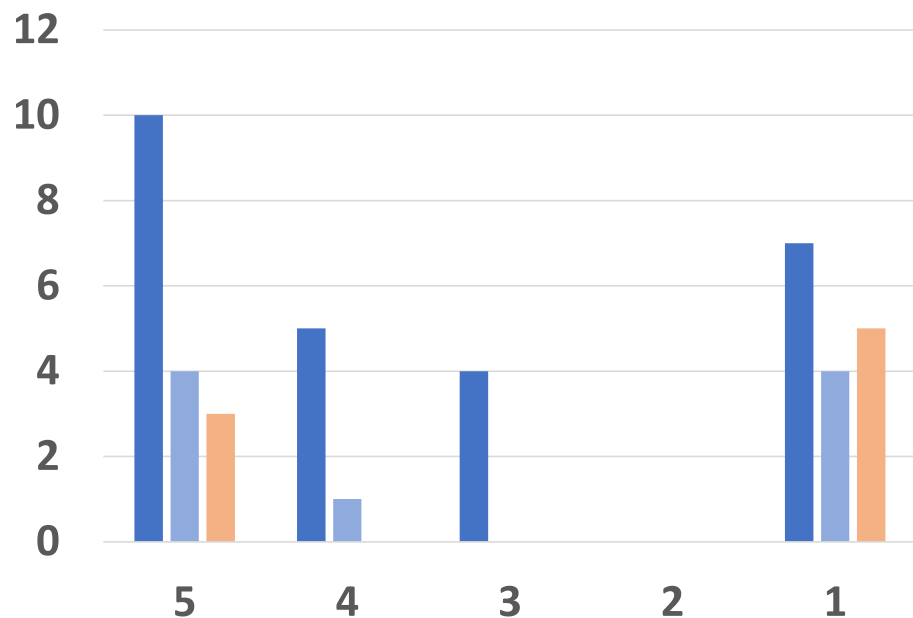
小規模施設では評価3が圧倒的多数。
全体的に評価3以上になっている。



【グラフについてのコメント】

評価が5・4に集中しており、グループホームの性格から、個々人のペースへの配慮が十分行われていると言える。

1.1 理美容の回数



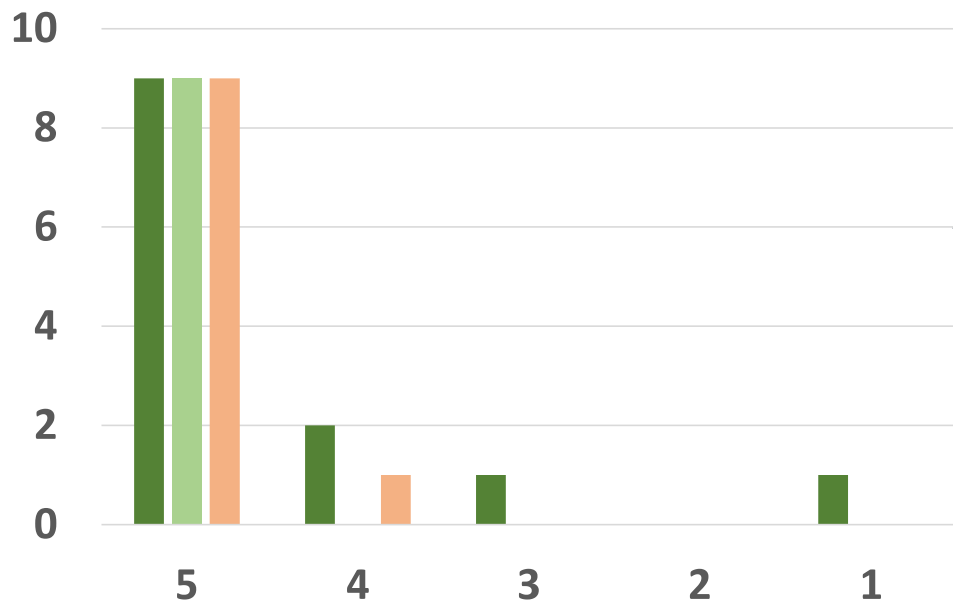
【評価方法】

- 5 : 利用者の希望に応じて、理美容院を利用。
- 4 : 理美容院の利用は、2カ月に1回程度。
- 3 : // 3カ月に1回程度。
- 2 : // 6カ月に1回程度。
- 1 : 出張散髪やボランティアで対応。

【グラフについてのコメント】

小規模施設の場合評価が殆どの項目に分布しているが、評価5（利用者の希望に応じて、理美容院を利用）が最も多い。

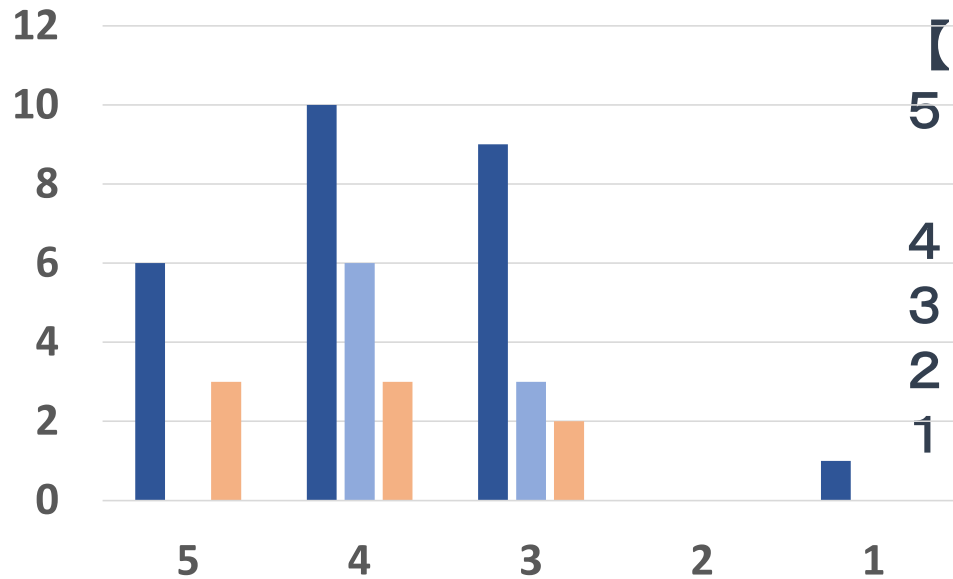
また、中・大規模施設の場合は、評価5と1に二極分化している。



【グラフについてのコメント】

小規模施設の場合評価が分散しているが、規模に関係なく評価5が圧倒的多数であり、グループホームの性格上利用者の希望が尊重されていると言える。

1 2 爪切りの回数

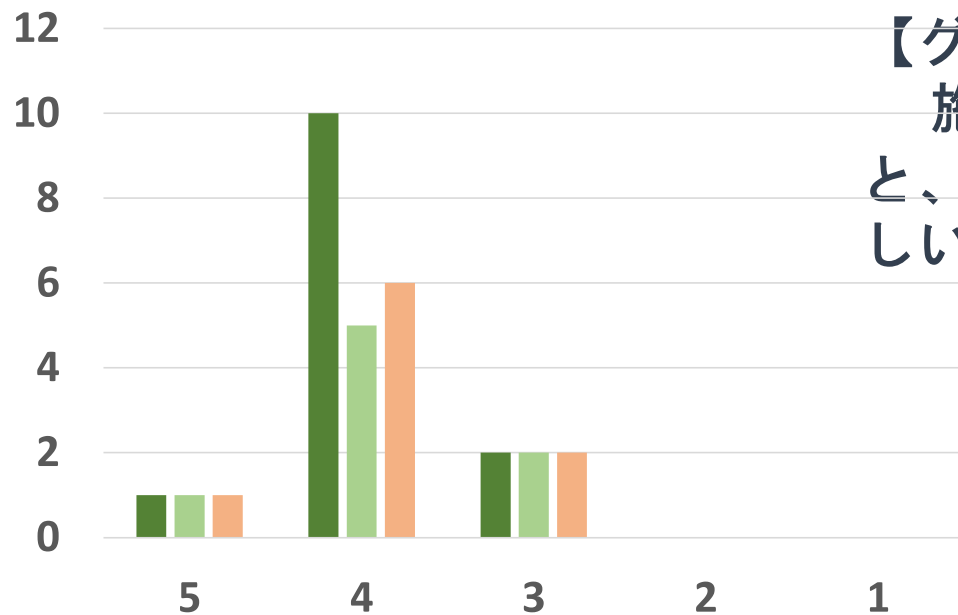


【評価方法】

- 5 : 随時確認し、個々に応じて爪切りを行い、爪垢の除去やヤスリで磨くなど実施。
- 4 : 随時確認し、個々に応じて実施。
- 3 : 1週間に1回は確認し、必要に応じて実施。
- 2 : 2週間に1回は確認し、必要に応じて実施。
- 1 : 月1回程度決められた日に実施。

【グラフについてのコメント】

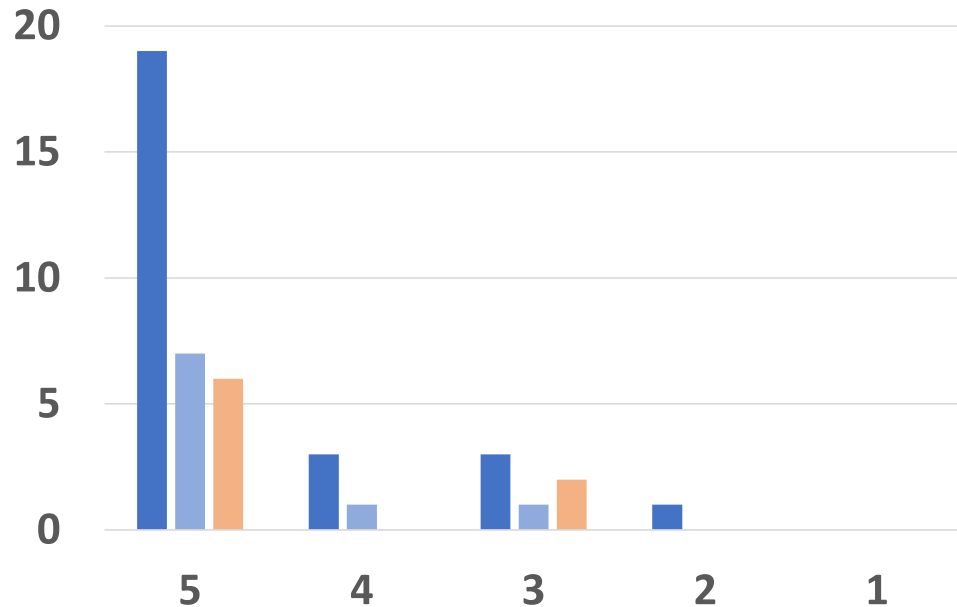
小規模施設は評価がほぼ全体に分散しているが、その他の施設を含め評価3以上が大多数である。



【グラフについてのコメント】

施設規模に関係なく評価3以上であることと、評価4が多数であることから、ほぼ好ましい状況にあると言える。

13 歯磨きの支援

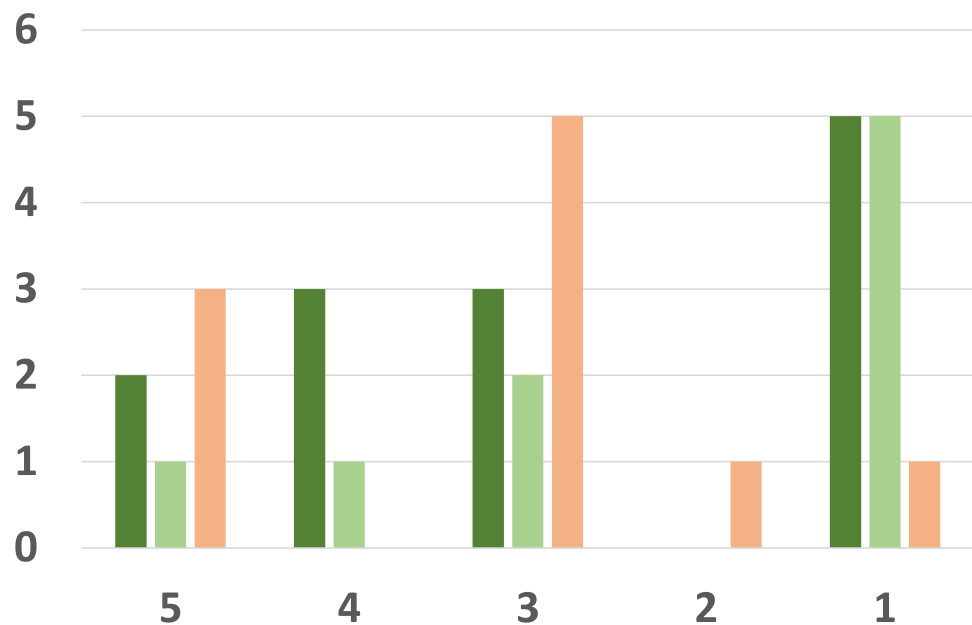


【評価方法】

- 5 : 歯磨きは毎食後実施に加え、定期的に歯科医による口腔ケアを行っている。
- 4 : 歯磨きは毎食後実施。
- 3 : 歯磨きは朝と夜 1日 2回実施。
- 2 : 歯磨きは 1日 1回のみ実施。
- 1 : 歯磨きは利用者本人に任せている。

【グラフについてのコメント】

施設規模に関係なく殆ど評価 3 以上で、かつ、評価 5 が多数であることから、好ましい状況にあると言える。

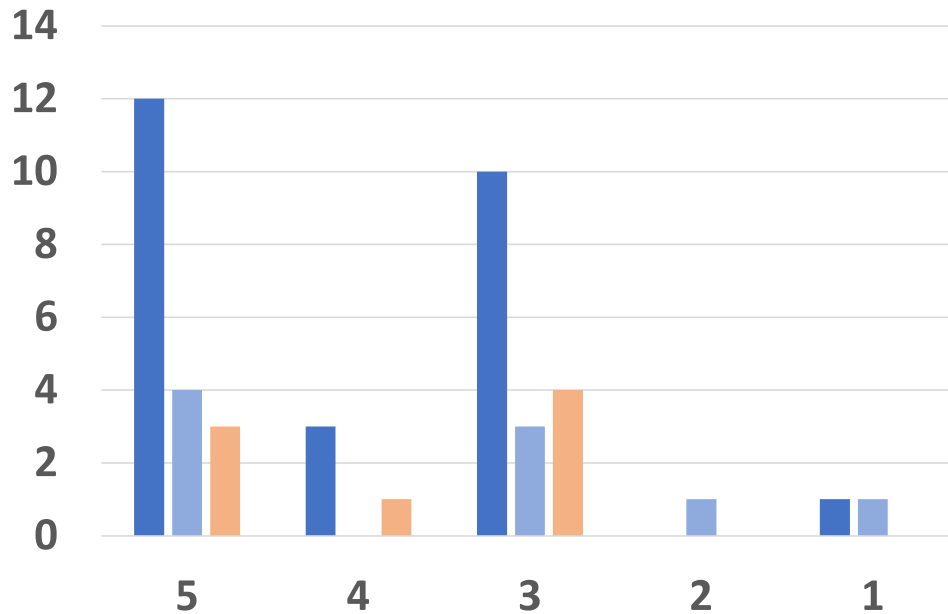


【グラフについてのコメント】

施設規模に関係なく評価が分散している。その中で、評価1（利用者本人に任せている）が、特に小・中施設の場合に多い点は、本当にそれでよいのだろうか、ということが気になる。

14 洗濯の方法

【評価方法】



5：汚れや・素材等に応じて分別洗いをするとともに、必要に応じ漂白等も実施

4：汚れや・素材等に応じて分別洗いをするとともに、洗剤・柔軟剤等の使い分けも実施。

3：汚れや・素材等に応じて分別洗いを実施。

2：汚れに応じて下洗いなどし、すべて一緒に洗濯。

1：汚れの確認はせず、すべて一緒に洗濯。

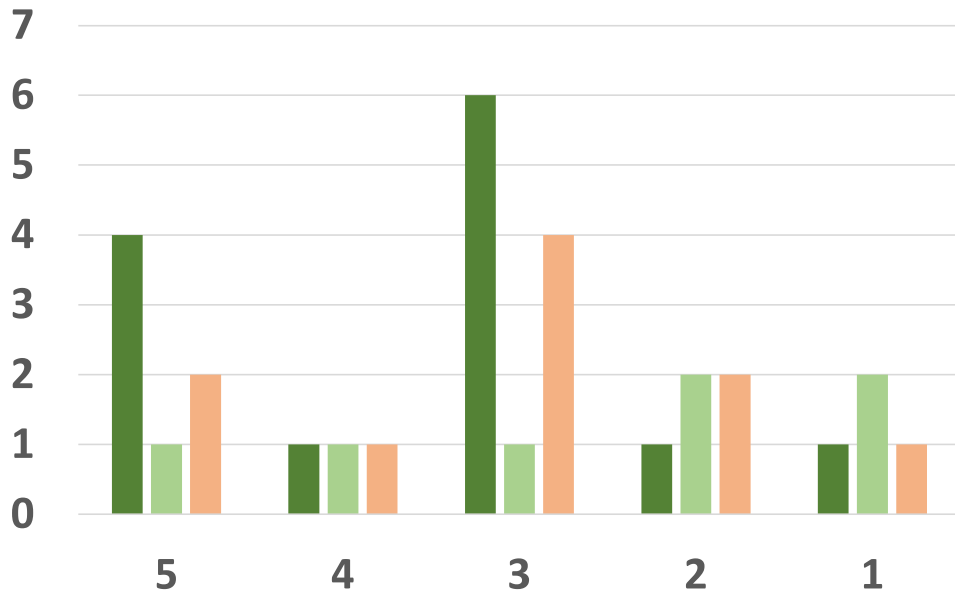
【グラフについてのコメント】

小・中規模の施設の場合、評価は全体に分かれている。ただし、すべての施設で評価3以上が多い。

【グラフについてのコメント】

施設規模を問わず評価は分散しているが、小規模施設の場合評価5と3に二極分化がはっきりしている。

すべての施設で評価1（汚れは確認せず、すべて一緒に洗濯）が、少数の施設で認められるが、これについては改善の余地があるのではないだろうか。



「施設等」からの率直なご意見

今回のアンケートに関して、各「施設等」から寄せられたご意見等は、以下のとおりです。

【入所施設の場合】

(1) 利用者への個別対応に関するもの

- ① ユニット制などの小グループ化により、障害特性の近い人たちが一緒になることで、生活上の制約が軽減されるのではないか。
(強度行動障害のユニット・自閉的傾向が強いユニット身辺処理を含め介護度の高いユニットなど)
- ② 夜間と朝の時間帯や休日の過ごし方の生活の質は、個々人の暮らし方の選択肢をできる限り多く用意するひつようがある。そのためには生活面の支援を専門とするスペシャリストの育成に、業界全体で早急に取り組む必要がある。
- ③ 「この施設に支援員自身が住みたいと思うか」と考えながら利用者の意思を汲み取り、支援方法を共有していくために、支援員一人一人の意識改革が必要。

(2) 利用者の高齢化・障害の重度化に伴う支援員の負荷の増大に関するもの
入所施設利用者の高齢化・障害の重度化に伴って、次のとおり支援員の負荷が増大している。

① 食事関係

嚥下・咀嚼機能低下・早食いによる喉つまりなどによる事故防止のため、食事を小分け・刻み食にしたり、アレルギー対策・腎臓病対策・肥満防止対策の食事提供を行っている。これらに伴って、食事提供時には支援スタッフによるサポートが必要である。

② 入浴関係

身体機能の低下に伴い、見守りや入浴介助の作業が増加している。

③ 排泄関係

定時排泄等の画一的なルーチン業務が増加している。

④ 通院あるいは誤嚥性肺炎での入院による病院への付き添いなど、医療的ケアが増加している。

⑤ 利用者家族の高齢化により、各種書類の作成等を職員が代行する件数が年々増加傾向にある。

【グループホームの場合】

グループホームの利用者は、自立度も相対的に高く、支援区分も一般的に低めと思われるが、そのことによって、次のような問題が発生することがままある。

- ① 本人の意思を尊重するように努めているが、入浴拒否・清掃拒否・夜間の音出し・偏食・トイレットペーパーやティッシュペーパー、洗剤など消耗品の使い過ぎなど、集団生活に支障をきたしたり、本人の健康上問題がある行為を、どのように納得し修正してもらうのか苦慮している。
- ② 携帯電話によるマッチングアプリ等のサイトを利用し、トラブルに巻き込まれる可能性があるが、これをどのように防いでいくのか。
- ③ 異性との交際方法・性教育の必要性がある利用者へのアドバイスは、どのようにしたらよいのか。
- ④ 利用者同士のトラブル回避が困難。同居者の叱責・他害・音出し等により、他の利用者が混乱し、行動障害が出てしまうこともある。

- ⑤ 金銭管理を自分でしている利用者が、不適切な使い方をしていても、職員の説得に耳を貸さない。
- ⑥ 災害時に世話人1名が複数の利用者を非難させることは不可能に近い。また、緊急時に救急車を呼んで職員が同乗した場合、グループホームは職員不在になる。
- ⑦ 利用者本人の判断力・危険認識を考慮して、プライバシーや自由と支援者の予防的付き添いのバランスを、どうすればよいのか迷う。これについては、他法人・他事業所とのオープンな意見交換ができれば、と思っている。
- ⑧ グループホームに関しては、近隣住民の偏見・苦情があるので、開設段階から近隣住民の理解を得ることが不可決である。

❁ 結びに代えて ❁

以上のようなデータや各「施設等」からの切実な意見等を踏まえ、今後神奈川施保連の活動を展開するにあたり、各保護者会等との連携をより密にするとともに、次のような点について取り組んでいく必要があると考えます。

(1) 行政に対する要望について

「施設等」における現状実態にかんがみ、施設団体連合会とも連携し、厚生労働省や神奈川県等に対し、機会あるごとに、支援職員の増ならびに処遇改善を求めていく。

(2) 施設団体連合会との意見交換について

- ① グループホームから寄せられた意見等の中で、「利用者本人の判断力・危険認識を考慮して、プライバシーや自由と支援者の予防的付き添いのバランスに関して、他の法人や事業所とオープンな意見交換をしたい」という趣旨の要望があった。

この件に限らず支援の現場、特にグループホームの場合は、支援員の皆さんが悩む様々な問題・課題があると考えられるので、法人相互・事業所相互の意見交換の場を設けることについて、施設団体連合会と意見交換をしたいと考える。

② 利用者の暮らしにかかわる各項目の評価のうち、特に評価 1 に該当する「施設等」の場合は、利用者の生活の向上という観点から、このままとすることはいささか問題があると考えられる。

したがって、評価 1 の改善策（なぜそうなっているのか、改善のために何をすべきか）について施設団体連合会と意見交換をしたいと考える。

以上

ご清聴ありがとうございました。

